

審議（会議）結果

審議会名称 第 16 期第 2 回神奈川県生涯学習審議会

開催日時 令和 5 年 11 月 13 日（月） 9 時 30 分～11 時 30 分

開催場所 神奈川県庁東庁舎 9 階委員会会議室

出席者【会長・副会長等】

石川 巧（神奈川県議会議員）

伊藤 真木子（青山学院大学教授）【副会長】

稲川 由佳（神奈川県社会教育委員連絡協議会理事）

大橋 昌行（一般社団法人神奈川県経営者協会人材活性化委員）

小池 茂子（聖学院大学長）【会長】

小森 素好（神奈川県 P T A 協議会監事）

杉下 由輝（公募委員）

夏井 美幸（神奈川県公民館連絡協議会会長）

野内 みつえ（神奈川県議会議員）

橋本 恵美子（神奈川県公立小学校長会副会長）

八巻 義徳（公募委員）

山崎 真理子（特定非営利活動法人かながわ女性会議会員）

※五十音順

次回開催予定 未定

所属名、担当者名 生涯学習課 奥田、沢

掲載形式 議事録

議事概要とした理由 ー

審議（会議）経過

1 開会<事務局>

2 あいさつ<生涯学習部長>

3 議題

県立学校における地域学校協働活動の推進について

○事務局

お手元の資料 1 「県立学校における地域学校協働活動の推進について」を御覧ください。少々お時間をいただきますが、こちらの資料に沿って、事務局から今回の議題の詳細説明を行います。

まずは「1 地域学校協働活動について」から「3 地域学校協働活動とコミュニティ・スクールの一体的推進」までを御覧ください。

43 「1 地域学校協働活動について」説明いたします。地域学校協働活動とは、地域住民、学生、
44 保護者、NPO、民間企業等の幅広い地域住民等の参画を得て、地域全体で子どもたちの学びや
45 成長を支えるとともに、学校と地域が相互に連携・協働して行う様々な活動のことを言います。

46 その目的は、平成 29 年 3 月の社会教育法改正により法律に位置付けられ、子どもの成長を軸と
47 して、地域と学校がパートナーとして連携・協働し、意見を出し合い学び合う中で、地域の将来
48 を担う人材の育成を図るとともに、地域住民のつながりを深め、自立した地域社会の基盤の構
49 築・活性化を図る「学校を核とした地域づくり」を推進し、地域の創生につなげていくこととし
50 ています。

51 この地域学校協働活動の推進に当たっては、地域住民や団体等により形成された「地域学校協
52 働本部」の整備が有効とされています。地域学校協働本部には、学校と地域をつなぐコーディネ
53 ーターとして「地域学校協働活動推進員」が配置され、学校・地域の連絡調整や、それぞれの実
54 情に応じた企画立案等の役割を果たすことが期待されています。

55 次に「2 学校運営協議会とコミュニティ・スクール」について、地域学校協働活動と関連の
56 深い取組として、コミュニティ・スクールがあります。教育委員会により任命された委員が、学
57 校の運営とそのために必要な支援について協議する機関「学校運営協議会」を設置した学校をコ
58 ミュニティ・スクールといいます。学校運営協議会は、校長が作成する学校運営の基本方針を承
59 認することや、学校運営について、教育委員会又は校長に意見を述べるすることができます。

60 次に、「3 地域学校協働活動とコミュニティ・スクールの一体的推進」についてです。先ほ
61 ど説明した地域学校協働活動推進委員が、学校運営協議会に委員として参画しながら地域学校協
62 働本部に働きかけるなど、学校と地域とで目標やビジョンを共有することが重要視されています。
63 学校運営協議会の協議結果を踏まえた地域学校協働活動を展開することで、学校運営の改善と地
64 域づくりの双方に資する活動が進んでいくことが期待されています。

65 ただいま御説明した地域学校協働活動とコミュニティ・スクールについて、詳細はお手元の参
66 考資料 1「これからの学校と地域」にまとめられています。後程、御確認ください。

67 地域と学校の連携・協働については、以前、第 13 期の生涯学習審議会で諮問と答申が行われて
68 います。参考までに、第 13 期の諮問内容と、答申の要点を御説明します。「4 神奈川県生涯学
69 習審議会の過去の答申」を御覧ください。

70 まず、諮問についてです。平成 27 年 12 月の中央教育審議会答申「新しい時代の教育や地方創生
71 の実現に向けた学校と地域の連携・協働の在り方について」において、地域と学校の連携・協働
72 が「生涯学習社会」の構築に資するとされました。新たに地域学校協働本部を全ての小中学校区
73 に構築し、コミュニティ・スクールと両輪となって相乗効果を発揮することが求められました。
74 こちらを背景に、地域と学校が連携・協働を進めるためのポイントや、活動を推進する体制整備、
75 地域住民等の参画を促す施策について、審議会に諮問がありました。

76 これに対する答申について、要点を御説明します。学校教育と社会教育にはそれぞれの「よさ」
77 があり、地域が学校に奉仕することだけが「地域と学校の連携・協働」ではないとして、地域社
78 会の中にある教育機能に期待し、「学校外の教育活動の場に子どもたちを送り出す」連携の在り
79 方もある、とされました。地域が学校に奉仕する視点のみが先行すると、地域の負担が大きくな
80 ってしまうため、地域住民が学校を支えるとともに、その活動を喜び楽しんで行える「Win-Win の
81 関係」を築く支援体制が継続のカギであるとされました。

82 答申のうち、提言の部分を抜粋して、お手元に参考資料 2 としてお配りしています。

83 こちらの答申を平成 30 年度にいただき、県内自治体にも共有、県でも内容を参考に事業を進め、
84 現在は 5 年ほど経過しています。「5 県内の地域学校協働活動の取組状況」を御覧ください。

85 (1)は令和5年度現在の地域学校協働活動推進事業実施市町村数と、箇所数になっております。
86 政令市を除く30市町村のうち17市町村が実施しております。箇所数は、小学校ごと中学校ごと、
87 とあるところもありますが、すべてで238ヶ所となっています。

88 (2)は県立学校における地域学校協働活動の導入状況です。地域学校協働本部設置校は、県立
89 学校166校のうち、3校設置しています。地域学校協働活動推進員は、4名任命しており、うち
90 学校運営協議会と兼任しているのは、3名となっています。

91 (3)は県立学校におけるコミュニティ・スクールについてですが、全校でコミュニティ・スク
92 ールを導入しています。各学校では、コミュニティ・スクールでの協議の結果を展開する実働組
93 織として独自の部会を設置しており、地域との協働に関する地域協働部会を設置している学校も
94 あります。事例として、横須賀高等学校の生徒が学校近辺で、絶滅危惧種のトウキョウサンショ
95 ウウオを発見したことをきっかけに、地域のNPOや博物館と協力して、小中学校向けワークシ
96 ョップの開催、地域のイベントでの啓発活動を行うトウキョウサンショウウオ保全活動がありま
97 す。

98 続いて、県立学校における地域学校協働活動の事例について、詳細を御説明します。参考資料
99 3「県立学校の地域学校協働活動の状況について」を御覧ください。

100 一つ目、神奈川県立愛川高等学校です。愛川高校は、地域連携をキーワードに愛川町唯一の県
101 立高校として、昭和58年4月に開校しました。愛川町内の三つの中学校と連携型中高一貫教育と
102 して、地域に貢献できる有為な人材の育成を目指し、地域の協力のもと、学校運営を行っていま
103 す。地域学校協働本部は平成30年度に設置されました。愛川高校では、以前から行われていた学
104 校外の各種インターンシップ、ボランティアを支援することで、地域側から愛川高校の生徒の自
105 己肯定感、コミュニケーション力の育成を目指し、地域学校協働本部「明日楓会」を設置します。
106 主な活動としては、愛川町内の事業所や団体が、生徒のインターンシップやボランティアの受入
107 先となり、体験活動を通して、色々な大人と接する機会としています。

108 二つ目、神奈川県立あおば支援学校です。あおば支援学校は、令和2年4月に開校し、小中高
109 等部の3つの学部と肢体不自由教育部門と知的障害教育部門の二つの教育部門を設置しています。
110 学校のミッションとして「地域とともに歩み、地域に貢献する」と掲げています。学校教育の場
111 として、障害のある子どもたちの教育に専門性の高い教育を提供し、子どもたち一人一人の教育
112 的ニーズに応じて、確かな学びを支えていく「地域貢献」の使命をしっかりと果たしていくため、
113 児童・生徒、教職員が積極的に地域に出ていき、地域と関わり、貢献できるような活動を模索し
114 ています。地域学校協働本部は、令和3年度に設置されました。学校内では、地域との交流スペ
115 ースが設けられており、地域と学校を繋ぐ拠点となっています。さらに、令和2年度から学校運
116 営協議会の会長に文部科学省のCSマイスターである竹原和泉氏を据え、地域学校協働活動推進
117 員の人選、地域との調整も整えました。また、地域側も、開校から地域の力を貸すことに協力的
118 な雰囲気があり、学校近隣の2つの自治体からも学校運営協議会の委員に選ばれています。主な
119 活動としては、保護者、教職員、地域コーディネーターによる熟議や花壇整備、地域貢献事業や
120 地域の大学と連携した「桐蔭マルシェ」、防災授業などが挙げられます。

121 三つ目、神奈川県立平塚農商高等学校です。令和2年4月に、平塚農業高等学校と平塚商業高
122 等学校が再編統合した学校です。学校目標の一つに「農業及び商業教育を通じて自己肯定感を育
123 み、それぞれの産業に従事することで豊かな地域づくりに貢献できる人材を育成する。」とあり
124 ます。地域学校協働本部は、令和4年度に設置されました。平塚市の城島地区との協働を念頭に、
125 設置を進めました。平塚農商と城島地区とは、以前から生徒が城島地区のイベントに参加するな
126 ど連携をしていました。持続的に、地域の活性化や課題解決に向け、平塚農商高校と連携をして

127 いきたいという、城島地区の意向を受け、高校側の、生徒の学びのフィールドとして城島地区を
128 活用したいという意向もあり、設置に繋がりました。主な活動としては、平塚市城島地区地域資
129 源活用による交流型体験の里づくり事業として、きじまマルシェ、田植え・稲刈り、野菜植付・
130 収穫などへの参加があります。

131 現在の取組状況については以上です。

132 一方、直近の教育関係の大きな動きとして、令和5年6月16日の教育振興基本計画の閣議決定
133 があります。「6 国の第4期教育振興基本計画」を御覧ください。

134 令和5年6月16日に閣議決定された第4期教育振興基本計画におけるコンセプトと総括的な基
135 本方針には、地域と学校の協働に関連すると考えられる記述があります。

136 まず、教育振興基本計画のコンセプトには、「持続可能な社会の創り手の育成」「日本社会に
137 根差したウェルビーイングの向上」の2つがあります。ウェルビーイングという言葉ですが、身
138 体的・精神的・社会的に良い状態であることをいいます。短期的な幸福のみならず、生きがいや
139 人生の意義など将来にわたる持続的な幸福を含んでおり、個人のみならず、個人を取り巻く場や
140 地域、社会が持続的に良い状態であることを含む包括的な概念とあります。

141 総括的な基本方針にはこのウェルビーイングの要素が挙げられており、資料に抜き出していま
142 すが、こういったウェルビーイングの要素を、教育を通じて向上させていくことが重要というこ
143 とです。

144 この他、関連する記述として、「個人のウェルビーイングを支える要素として、学力や家庭環
145 境、地域とのつながりなどがあり、それらの環境整備のための施策を講じていくという視点が重
146 要」「生涯学習・社会教育を通じて、地域コミュニティを基盤としてウェルビーイングを実現し
147 ていく視点も大切」「子供たちのウェルビーイングを高めるためには、教師のウェルビーイング
148 を確保することが必要であり、保護者や地域との信頼関係により、職場の心理的安全性を保つこ
149 とが求められる」「子供たち一人一人が幸福や生きがいを感じられる学びを保護者や地域の人々
150 とともにつくっていくことで、学校に携わる人々のウェルビーイングが高まり、その広がりが一
151 人一人の子供や地域を支え、更には世代を超えて循環していくという在り方が求められる」な
152 の記述があります。

153 こうした背景を踏まえ、第13期の議論から、今回の審議で新たに追加したい視点について、
154 「7 新たに追加したい視点」に、参考資料4「地域学校協働活動の推進に向けたガイドライン」
155 から引用しています。

156 「高等学校を対象として地域学校協働活動を実施する場合は、キャリア教育を推進する観点か
157 らも、特に、学びによるまちづくり、地域課題解決型学習、地域人材育成、ボランティア活動と
158 いった社会参画型の活動を充実していくことが重要です。高等学校における地域学校協働活動の
159 推進は、高校生自身が自らを地域の担い手の一員であると認識し、地域課題の解決や地元での就
160 職・起業等も視野に入れて進路を選択するなど、地域で活躍する意識を持つ若者の増加にもつな
161 がり、地域の創生の促進にも資することが期待されます。」ということです。

162 教育振興基本計画の中で資料に下線を引いた部分、「利他性」「多様性への理解」「社会貢献
163 意識」「自己肯定感」「自己実現」など、これらの向上についても、県立学校、特に県立高校へ
164 の地域学校協働活動の推進が必要と考えています。

165 次に、県立学校には様々な種別がありますので、簡単に御説明します。「8 県立学校につい
166 て」「(1) 県立学校の概要」の表を御覧ください。

167 学校種別は主に3種に分けております。高等学校、中等教育学校、特別支援学校です。まず高
168 等学校ですが、主に16歳から18歳が通い、県内135校あります。学習形態の違いにより全日制・

169 定時制・通信制に分かれ、農業、工業等、学習内容に特徴がある専門学科や、普通科と職業学科
170 を総合する総合学科があります。

171 次に中等教育学校は、主に13歳から18歳までの6年間通うもので、県内2校あります。前期課
172 程は中学校、後期課程は高等学校の基準が準用され、特色ある教育課程を編成できます。

173 最後に特別支援学校は最も年齢が幅広く、主に6歳から18歳が通い、盲・ろう学校には幼児も
174 在籍します。障がいがある児童・生徒の自立や社会参加に向けた主体的な取組を支援するという
175 視点に立ち、子ども一人一人の教育的ニーズを把握し、適切な指導及び支援を行っています。

176 それぞれの地域学校協働活動の特徴について「(2) 県立学校における地域学校協働活動」を
177 御覧ください。

178 県立学校のうち、「中等教育学校」及び「特別支援学校」には、義務教育を受ける年齢の児童
179 生徒がいます。一般的にそうした年齢の児童生徒が通学する小中学校では、地域から支援を受け
180 る立場での協働が多く行われています。

181 一方、「高等学校」では、地域からの支援に加えて、生徒が地域を支援する立場での協働も行
182 われており、学校数や生徒数約11万人と、非常に多いことも踏まえると、取組を推進する上で高
183 等学校での実施は重要であると考えられます。

184 そこで、本審議会における「県立学校における地域学校協働活動の推進」では、主として「高
185 等学校」を対象とした議論をお願いしたく存じます。

186 なお、高等学校は通学区域が広域にわたり、学校が所在する「地域」と、生徒が居住する「地
187 域」が異なるなど、「地域」の捉え方が小中学校と相違することや、学科によっては、社会の一
188 員としての役割を担う力をつけることが重視されているなど、小中学校と事情が違う部分がある
189 という視点も持って議論をお願いいたします。

190 以上、前提の御説明をいたしました。

191 今回、御意見を伺いたいのは「県立学校における地域学校協働活動の推進について」です。

192 「9 議題「県立学校における地域学校協働活動の推進について」」を御覧ください。

193 論点として挙げているのが、「地域と県立学校が連携・協働して取り組むために必要なこと」
194 です。現在、学校と地域が連携し、地域イベントの企画から運営までを生徒が主体的に担う取組
195 や、近隣の事業所を訪れ職業体験する取組を行う県立高校があります。こうした取組は、生徒の
196 自己肯定感を高めることになるだけでなく、地域の活性化などにも繋がります。

197 一方、取組の推進には様々な課題があると考えられることから、こうした取組を広げ、かつ継
198 続的に行われる活動とするために、どのようなことが必要と考えられるかについて議論いただき
199 たいと思います。

200 事務局案ではありますが、課題と思われることをまとめています。まず、地域学校協働活動事
201 業への理解が十分でないこと、学校や地域に対して当該事業の周知が十分ではなく、活動への理
202 解が進んでいないのではないかと、学校によっては取組を始めることに対して負担を感じているの
203 ではないかということです。そのほか、小中学校と比較して地域と学校との結び付きが弱いと、
204 地域の情報が少ないのではないかと、コミュニティ・スクールの「地域連携部会」で実質的に連携事
205 業を実施している学校があり、その活動が「地域学校協働活動」に数えられていないこと、事業に
206 関わっていただける人材への謝金などの予算確保が十分でないことなどを挙げています。

207 なお、この議題は次回以降の審議会でも継続して検討したいと考えていますので、第2回の審
208 議会では地域と学校が連携・協働して取り組むために解決すべき課題の洗い出しを中心に議論
209 いただき、解決に向けた方策等について次回以降の検討課題とすることを資料に示しています。

210 事務局からの説明は以上です。

211 ○小池会長

212 本日、第2回の神奈川県生涯学習審議会では、県から議題が提示されています。県立学校にお
213 ける地域学校協働活動の推進について、委員の皆様から意見をいただきたいということです。

214 今、地域と学校が連携して、地域全体で子どもたちを育てていくために、コミュニティ・スク
215 ールなどの制度ができています。しかし、制度があっても、それが動かないことも事実です。

216 私は先日、宮崎県で開催された全国社会教育研究大会に参加し、地域と学校の協働をテーマに
217 した分科会に出席しました。県からも、課題という形で先んじてまとめていただきましたが、分
218 科会では、「本当に学校が地域と連携することを求めているのか、という学校の事情がある」
219 「制度として様々なものを整えているが、先生方が窓口となり、外部の人を招き入れなければい
220 けないと、学校の負担が増えるのではないか、という学校の本音がある」そして、「地域は、お
221 願いされてコミュニティ・スクールの委員などの形でそこに参画するが、まだお客さんのこと
222 で、本音で語る運営協議会にはなっていない」という意見がありました。

223 さらに、学校と地域を繋いでいく中には、核となる人がいることが大事だろうという意見で、
224 まとまっていました。

225 また、学校と地域の連携について考えたときに、学校に入っていただくだけではなく、社会教育の
226 施設、例えば公民館、郷土資料館、博物館を利用して、社会教育の場に学校の生徒たちを呼んで、
227 そこにおける協働というような形で社会教育を受け皿として活用できないか、このようなことが
228 分科会の協議の中でも語られました。

229 小学校と中学校は、市立ですけれども、今日のテーマは県立学校ということです。

230 県立学校に通っている生徒たちは、必ずしも、その学校がある地域の近隣に住んでいるわけ
231 はありません。そういった県立学校と地域が協働をして、地域全体で子どもを育てることにおいて、
232 何が必要なのか。委員さんたちから、それぞれが活動されている経験、あるいはそれぞれが関わ
233 っている様々な会議でお考えになっている意見を忌憚なくお話いただきたく、この会があること
234 を御理解いただきたいと思います。

235 私も、いつも大学にいて、県立学校の様子はよく承知しているわけではありませんが、様々な
236 会議や、研究大会に出て学んできたことを、この場で皆様とともに考えていきたいと思っていま
237 す。

238 どうぞよろしく御協力のほどお願い申し上げます。私の挨拶は以上とさせていただきます。

239 それでは、先ほど事務局から御報告いただきましたが、この2月に開催した生涯学習審議会の
240 後で、委員の交代がございましたので、お一人ずつ御紹介したいと存じます。

241 お名前を呼びますので、簡単に自己紹介をお願いしたいと存じます。それでは、石川巧委員、
242 どうぞよろしくお願いいいたします。

243 ○石川委員

244 三浦市選出、今回3期目を迎えます、自民党の神奈川県議会議員石川巧でございます。どうぞ
245 よろしくお願いいいたします。

246 ○小池会長

247 続きまして、野内みつえ委員、よろしくお願いいいたします。

248 ○野内委員

249 大和市選出の神奈川県議会議員野内みつえと申します。

250 大和市内の小中学校のPTA会長を務めた後に、市P連会長をさせていただき、大和市議会か
251 ら県議会に参りました。どうぞよろしくお願いい申し上げます。

252 ○小池会長

253 それでは続きまして、山崎真理子委員、お願いいたします。

254 ○山崎委員

255 かながわ女性会議から参りました、山崎真理子と申します。よろしくお願いいたします。

256 地域の中の活動を今までやってきたので、資料をいただいたときに「ここと繋がっているのか」

257 と確認できたことが、一つうれしかったことです。

258 これまでの体験が、この場で何か一つでも活きればと思いますので、どうぞよろしくお願

259 いたします。

260 ○小池会長

261 どうもありがとうございました。

262 今日、事務局が様々な資料を御用意くださっています。

263 参考資料1、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動について、1から2ページあたりを

264 御覧ください。

265 学校と地域住民等が力を合わせて学校運営に取り組む「コミュニティ・スクール」と、学校と

266 地域が相互にパートナーとして行う「地域学校協働活動」の一体的な実施を、文部科学省が推進

267 しているとあります。

268 2ページ目の一番上のイラストを見ると、コミュニティ・スクールというものがあって、地域

269 住民が、学校運営協議会というところに参画をしています。

270 自治会長などが委員になって、校長先生の学校運営や、先生方のあり方について、学校側の説

271 明を受け、意見を提出することができる。学校に子どもを通わせていない地域住民が、学校の教

272 育について意見を述べる場ができたということです。ただ、それは、苦情を言うだ

273 けのものではありません。地域の方々に連携して協力してもらいながら、学校の教育力を上げて

274 いくために、学校運営協議会、コミュニティ・スクールは構成されています。

275 また、地域学校協働本部というものがああり、学校と地域を結んでいくために、様々な方たちが

276 メンバーになり、会議をして、それを学校に伝えるという仕組みを持っている自治体もあるよう

277 です。

278 そして、このことは、第13期の生涯学習審議会でも取り上げられてきました。学校と地域の連

279 携について、参考資料2の第13期の生涯学習審議会の答申があります。先ほども御紹介いた

280 しましたが、このときには県立学校という枠組みはありませんでした。学校と地域が、ともに連携

281 協働して子どもたちを育てていくために、何が課題なのか、何が必要なのかを、審議会で協議し

282 てまとめたものが、この第4章の提言です。

283 今回も課題が発掘されて、学校、地域の連携活動に関わる地域の皆さん、さらに県の教育行政

284 に求めたい事柄について、私たちが意見を述べていく中の柱となっていきます。そういった観点

285 から、皆様の御意見を提出していただきたいです。

286 今まで、資料等御説明していただきましたが、わからないことはありますか。意見を言ってい

287 ただく前に、御確認したいところがあれば御発言をいただきたいと思いますが、いかがでしょう

288 か。

289 ○石川委員

290 答申から5年経って、本部設置校が166校中3校とあるが、目標数値があるのでしょうか。

291 もう一つの疑問点ですが、先ほどの横須賀高校の事例があったとおり、地域の活動をする高校

292 はたくさんあります。これを発展させて、いわゆる地域学校協働活動に結び付けられるのではな

293 いかと思います。

294 この2点をお伺いしたいです。

295 ○小池会長
296 それでは、今の御質問に対して、わかる範囲で結構ですので、御回答いただきたいと存じます。

297 ○事務局
298 これは、国が補助金を出して、県も市町村に対して県の予算をかけて、それぞれが3分の1ず
299 つ、費用を出し合って進める事業です。

300 制度としては、その予算をかけずに、学校が費用なしで取り組んでいる地域との連携もありま
301 す。

302 その二つを同じように論じてしまうと、目標が出しにくいのですが、費用をかけてやる、県の
303 方で取り組んでいる地域学校協働活動の連携事業については、小中学校同様、最終的な目標とし
304 ては全校というのがあると思います。

305 一方で、その予算については限界があり、費用をかけなくても、地域との連携ができてい
306 る実態もありますので、両方足した中で全校というイメージを持っています。

307 ○石川委員
308 今ある、地域の職業体験や、横須賀高校でのオオサンショウウオの事例があり、それを発展さ
309 せることが、最終的に本部設置に繋がるかと思ったのですが。

310 ○事務局
311 冒頭に申し上げた、予算をかけずに行う地域の活動も承知しています。これらが予算事業に繋
312 がない最大の要因は、しっかり見てきているわけではありませんが、学校から挙げられている
313 事例の一つからは、国の補助金の要件の一つになっている地域学校協働活動の推進員、先ほど会
314 長からもお話ありました「核になる人材」の適任者がいないということです。本来であれば、コ
315 ミュニティ・スクールの学校運営協議会に出席して、学校の課題をとらえて、地域でそれをどの
316 ようにやっていくかという、コーディネーター的な役割を担う推進員に、適任者がいないことは
317 一つの要因になるかと思えます。

318 その、費用をかけない地域連携があること、また、予算をかけた事業としてやる場合には、推
319 進員の適任者がいないこと、この二つが大きくあるのかと思えます。

320 ○石川委員
321 活動自体はいいものではないでしょうか。予算もかけない方がいいわけです。今後、補助金が
322 なくなる可能性もあって、今は予算化してない事業も非常に重要だと思います。それを予算化し
323 ないと本部設置にならないのですか。

324 例えば横須賀高校の活動は、予算化されていないけど、地域学校協働本部設置校にしよう、と
325 いうことはできないのですか。

326 ○事務局
327 国が説明する中で、地域が地域学校協働本部を設置して、組織化することで円滑に回っていく
328 という説明はしています。一方で、本部を名乗らなくても、実態として、核となる方がいて上手
329 く回ることもあるかもしれません。そういった仔細の部分まで把握しきれていないという実態も
330 あります。

331 ○石川委員
332 県教育委員会の方で設置すればいいという可能性もあるのでしょうか。

333 ○事務局
334 学校の負担感があるかと思えますけれども、実態として、設置せずに、核となる人材のおかげ
335 で進んでいる可能性もございます。そして、それを教員が負担している可能性もございます。

336 ○小池会長

337 地域学校協働活動推進員は、今何名いらっしゃるのですか。
338 ○事務局
339 県の方で把握して、今活動しているのは先ほど御説明した3校、延べ4人です。
340 ○小池会長
341 予算化されて、その方には報酬を出しているのですね。わかりました。
342 他に何か確認をしておきたいことが事前にありましたら、承りたいと思いますが、よろしいで
343 すか。
344 (特になし)
345 それでは、皆様から、テーマについて御意見を賜りたいと考えています。
346 県立学校における地域学校協働活動を推進していくということにおいて、御自分が今、経験を
347 されている活動を通して、さらに、様々に見聞きしていることを通して、皆さんの御意見、「ど
348 うしたら、この活動がさらにいい形で推進できるのか」ということについて、御意見を賜りたい
349 と思います。
350 まず、私のところには皆様のキャリアを少し踏まえて、このコミュニティ・スクールに関係し
351 た活動をなさってきた方の名前が何件か上がっています。県立学校、藤沢西高等学校のコミュニ
352 ティ・スクールの委員長を務めていらっしゃる方が、この中にいらっしゃるということですが、稲
353 川委員。
354 ○稲川委員
355 はい。
356 ○小池会長
357 そのことについて、経験を踏まえてでも結構ですし、他でも見聞きしたことを踏まえてでも結
358 構ですので、この県立学校における地域学校協働活動の推進について、御意見を賜りたいと思
359 います。よろしく願いいたします。
360 ○稲川委員
361 県の社会教育連絡協議会の理事をしています、稲川由佳と申します。どうぞよろしくお願いい
362 たします。
363 会長からお話がありましたけれども、実は私、神奈川県立藤沢西高校の学校運営協議会の委
364 員長をさせていただいています。先ほど事務局からもお話がありましたように、藤沢西高校の場
365 合は、予算をとっていないのですが、地域と藤沢西高校が密接に結びついて、色々な活動をして
366 います。
367 一つに、平成13年度から始まっています「遊 ing 西高」というものがあります。藤沢西高校の
368 部活動を、地域の小学生や中学生が、実際に体験する活動を、年に1回、大体、毎年度3月にや
369 っています。
370 それ以外に、子ども会議「マイミライ」という活動があります。地域の方たちと、藤沢西高校
371 の生徒会、あと、小学生を公募して、子どもが考える地域ということで、色々な意見を出し合う
372 会議を推進しています。
373 それに基づいて、実は最近「マイミライ next」という活動を始めました。実は藤沢西高校の非
374 常に近くに、湘南大庭市民センターという、市民センターと公民館が併設されているところがご
375 ざいまして、そこと非常によく連携が取れています。何かを行うときは、市民センターを会場と
376 して、活動を行うことにしているのですけれども、そこに、誰でも集えるカフェみたいなものを、
377 藤沢西高校の生徒が中心になって開くという活動です。90歳のおじいさんから幼稚園のお子さん
378 まで、そのカフェに集まって、住民同士のコミュニケーションを取っていくものです。

379 また、そのカフェや、市民まつりみたいなものがある場合は、美術部が入口の門を作るなど、
380 そのような形で、連携を取っています。特別に、地域学校協働本部の形にはしてはいませんが、す
381 ずに、どんどんそれを進めているというのが実態になっています。

382 特に中心になっている地域の方が、学校運営協議会にお入りいただいています。その方に毎回、
383 「遊 ing 西高はこのような状況になっている」「マイミライ next はこういうことをやっている」
384 と、学校運営協議会の中でも御報告いただいています。

385 その活動が、タウンニュースなどの広報誌で広報されたりしているのですけれども、実はつい
386 先日も、藤沢市の社会福祉協議会の大会がありまして、そこで、地域の方の居場所についてシン
387 ポジウムというような形にして、パネルディスカッションを開きました。そこにも、学校運営協
388 議会に御出席いただいている地域の中心の方と、藤沢西高校の生徒会長が、二人ともパネリスト
389 として出席して、「地域ではどういうことを行っているか」、「マイミライ next というものが、
390 地域の住民のコミュニケーションの場になっている」と発表してくれています。

391 以上のように、藤沢西高校は、地域学校協働本部という言葉とは別に、もうどんどんそういう
392 ことをやっている実態がございます。

393 ただ、私が非常に感じるのは、ラッキーなところだなと思いますが、藤沢西高校のすぐ近くに
394 市民センターがあります。市民センター、公民館があるということと、先ほど出ましたコーディネ
395 ネーターをやってくださっている方が、本当に熱心に学校と地域を繋いでくださっている、とい
396 うことがありまして、条件が幸いにして揃っています。

397 また、学校も非常に協力的で、地域の方たちも、学校と一緒に地域を盛り上げたいというお気
398 持ちが非常に強いという実態もございますので、非常に、言ってみればラッキーな場所であるな
399 ということは感じています。以上です。

400 ○小池会長

401 ありがとうございます。

402 学校の隣に市民センターと公民館があるということ、そこの連携が非常にうまくいっていて、
403 地域学校協働本部はないけれども、地域の方々、或いは社会教育施設の方々、学校運営協議会
404 に意見を提出してくださる場がある、連携ができていて、ということでした。

405 そして今、コーディネーターとおっしゃってくださったのですが、コーディネーターは、この
406 地域学校協働活動推進員ではなくて、どういう立場でどのようなお仕事をなさっているのでしょ
407 うか。

408 ○稲川委員

409 実は藤沢市には「三者連携ふじさわ」というものがありまして、学校・家庭・地域連携推進事
410 業をやっています。その中で、湘南大庭の地域は、「湘南大庭地区子どもサポート会議」という
411 ところがございまして、その会長が、コーディネートをやってくださっています。

412 サポート会議の構成員は、地域の小中学校の学校長と、藤沢西高校の校長、大庭中学校の保護
413 者の代表、地域の中学校小学校の保護者です。

414 それ以外に、社会福祉協議会、民生委員学校委員協議会、生活環境協議会、子どもの家運営委
415 員会など、そういう方たちが集まった「湘南大庭地区子どもサポート会議」というものがあり、
416 そこが中心になって、その会長が学校運営協議会に入ってくださっている形です。

417 ○小池会長

418 わかりました。市がやっている会議の核となる方が、学校と市民センターとか、学校と公民館
419 を繋ぐコーディネーター役を、藤沢西高校の間でやってくださっている。こういう２段階構造が
420 ある。

421 市の会議の中からコーディネーターが、県立高校と地域の社会教育施設を結ぶコーディネート
422 役になってくれる、ということですね。それが藤沢市にある。わかりました、ありがとうございました
423 ました。

424 たまたま、いてくださったわけですね。こういったラッキーな部分が重なっている、という
425 ことですね。ありがとうございました。

426 それではこの会議では、必ず1回は皆さんに意見を発表していただくということを、お願いし
427 たいと思っていますので、よろしく願いいたします。

428 八巻様、民間から県立高校の校長先生になって、そして2014年時点でコミュニティ・スクールの
429 の立ち上げも経験されている、色々なキャリアをお持ちでありますので、その点から今回のテー
430 マについて、御発言をいただければと思います。

431 ○八巻委員

432 八巻です。

433 私自身は2003年から、福島県立学校長に民間から入りました。「キャリア教育をしたい」とい
434 う大きな動機がありました。その後、福島県内自治体の教育長になって、当時は数少ない学校運
435 営協議会を設置しました。

436 地域の方々を公募すると、たくさん集まっていただきました。その公募の推進員のスペックが
437 わかりやすかったというのが、あるかと思います。まず、「忙しい」「大変だ」「難しい」とい
438 う言葉を使わない人、ということでした。

439 その時に感じたことをお話し申し上げます。こうした地域と連携した事業は、今後共、量的な
440 拡大、質的な充実が必要です。現在、私は「Edu.3C」というチームの代表をしています。「Edu」
441 というのは、Education、教育を意味し、3Cは、Community、Collaboration、Childrenの三つのC
442 です。地域が協働して子どもたちに関わる、というチームで、県内のいくつかの高校とも接点を
443 持っています。

444 現在までの経験から、この活動が、なぜ地域ごと、学校ごとに大きな差があるのか、私は三つ
445 の差だと思っています。

446 一つ目は、都道府県、市町村の首長の姿勢の差だと思っています。二つ目はそれを受けた都道府県、
447 教育委員会の取組の差だと思っています。三つ目が、学校現場、特に校長、そしてさらに、その担
448 当者の差だと思っています。この差の分析自体が、この活動の改善策の検討かと思っています。私の経験
449 からこの差を小さくする方策を申し上げます。

450 県立学校長としてこの活動をする、福島県もそうでしたが、まだ理解が少なかったものです
451 から、単発的になりました。私が異動してきた地域では、活発になりますが、私が他の地域へ異
452 動すると弱くなりました。

453 この解決のために、県教育委員会のリーダーシップが非常に大事です。ただ、県教育委員会や
454 教育長だけ、事務局だけが頑張っても、限界があります。そこで、首長と教育委員会が知恵を出
455 し合う「総合教育会議」の活用があります。ここでしっかり議論し、その結果内容をビジョンと
456 してまとめ、その中に、名詞の羅列ではなく、数値目標を入れる必要があります。この中に、求
457 める地域推進員像をはっきりさせる、すなわち、「こんな人が欲しい」と具体的に明示すること
458 です。

459 この数値目標は、後に県教育委員会の方針として、各県立学校の学校目標の中に落とし込むこ
460 とです。そのフォローも求められると思います。この時、学校運営協議会のある地域は基盤がで
461 きていますので、比較的手を付けやすい印象があります。

462 ただ、このとき、課題があります。それは学校担当者の問題です。地域社会から考えれば、地

463 元の学校が地元のコミュニティ、会社、そして地域の町内会と繋がることは当然と考えます。し
464 かし、教育公務員の場合、職種経験の乏しさからか、躊躇する方がいます。地域と連携できる担
465 当教員を選ぶ、育てていく、増やすことが大事だと思います。

466 私は教育長時代に活用したのが、業績評価と人事評価を通じて教員の成長を期する「教職員評
467 価システム」です。地域活動の取組と同様、この評価システムの取組も都道府県ごと、市町村ご
468 とに随分差があります。教育委員会が教員のスキル向上を図る核の一つとしてこの評価システム
469 を位置付けるべきだと思います。

470 以上より、学校と地域社会の活動の統括者としての教育委員会のリーダーシップと学校現場管
471 理職のファシリテーターとしての力は大きな決め手だと思います。

472 ○小池会長

473 首長や教育行政が、これについてどれだけ、理解をして進めていこうという気概があるか、と
474 いうことが大きいと。学校側の校長先生の理解や、地域との窓口になる、外の世界との連携とい
475 うものを保つことができる、そういった資質をもった先生がいるか、ということが大きな差を生
476 むということですね。ありがとうございました。

477 今、学校側の校長の考え方も、差を生む要因だという話でしたが、校長先生がいらっ
478 しゃいますので、学校側の立場から、忌憚のない真実の御意見を伺いたいなと思っています。橋
479 本委員お願いいたします。

480 ○橋本委員

481 神奈川県公立小学校長会の副会長しております、橋本と申します。

482 今、八巻先生のお話を、とても耳が痛い思いで聞いていました。実際、何度もこの会議の中で
483 出ているコーディネーター、活動推進員の役割が大変重要ですし、推進員は、どこの学校でも見
484 つけられるわけではないことがすごくしんどいところだと思っています。

485 八巻先生のお話だと、教職員の方にそういう力のあるものを見い出したり、または育てたりし
486 なければならない、ということでした。

487 今、学校は本当に、正規の職員も足りなくて踏ん張っていて、地域の力を借りたいと、喘いで
488 いるところであるので、その任務を今いる新しい職員たちに担ってもらうのは、正直大変きつい
489 ところであります。

490 資料で書かれているような、地域も学校も Win-Win の形に、最終的には、なったらいいと私も
491 思っています。

492 今、この県立学校での実施ということで、本校は近くに単位制の県立学校があります。そちら
493 の校長先生にうちの運営協議会に入っていていただいて、小中学校と高校で連携できることはないか、
494 活動を進めています。

495 3学期には高校の先生が本校に来て、あちらは「職業体験」の名目で、本校としては、1日だ
496 けの「ボランティア」として、高校の先生に小学校の指導を見ていただいたり、小学校の先生のお
497 仕事を体験していただいたりする場にしていきたい、と昨年度からしています。

498 あと、これは偶然に始まったのですが、そちらの学生が、ボランティアすることが単位にもな
499 るということで、本校のボランティアとして、主に支援級の支援員のような仕事をしてくださっ
500 ています。

501 単位制で、昼間の時間に融通の利くお子さんたちもいるので、そういう活動がもっと大きくな
502 って行って、例えば、休み時間に一緒に遊んでいただくとか、本を読みに来ていただくとか、そ
503 ういう活動をもし、もっと活発にすることができたら、お互いに良いと思っています。

504 これまでの学校生活に不満を抱えていたようなお子さんも多いので、小さい子どもたちと関わ

505 る中で、自己肯定感が高まるような活動をしていかれたらいいなど、細々とは思っているところ
506 です。

507 ただ、コミュニティ・スクールの運営について私自身は、まだまだ至らないところばかりで、
508 こちらで刺激をいただいて、また頑張ろうと思っています。以上です。

509 ○小池会長

510 ありがとうございます。学校の先生方はお忙しいですね。その中で、教員の中に窓口を作
511 るということは、なかなか現場の現状としては難しいものがあるということでした。

512 また、近くにある県立高校が単位制高校ということで、学校にいる生徒たちにとっても、小学
513 校に来て、ボランティアをして、「兄ちゃん、姉ちゃん」と、すごく感謝してもらえることが、
514 本人たちの自己肯定感や、社会に居場所があるという実感に結びつく、そういった教育成果があ
515 るだろうということでした。

516 ボランティアとか職業体験の取っかかりを、もっと太いパイプにして、お互いの学校の協働と
517 という形、学校間協働という形ですね。県立高校の中の生徒たちにとって、地域にある小学校と連
518 携することで、生徒たちの成長に繋がる一つのケースでした。ありがとうございます。

519 ここから、順不同に色々伺っていきたいと思いますが、PTA会長の御経験があるということ
520 で、小森委員、いかがでしょうか。

521 ○小森委員

522 神奈川県PTA協議会で来ております小森と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

523 どうしても、小中学校のPTAからの目線ということになってしまい、県立学校における地域
524 学校協働活動推進になりますと、また一つハードルが高い印象です。

525 先ほど橋本委員のお話にもありましておおり、地域にせっかく高校があるということで、地域
526 の方々にも、ウェルビーイングの向上も踏まえ、色々な活動をした中で幸福感を味わっていただ
527 けるようなことを模索しながら、我々の中学校単位の小さなところから、発展していけばいいと
528 思います。

529 コミュニティ・スクールの方から、地域の方々へ呼びかけ、お伝えしていけたらと今、感じて
530 いるところです。

531 ちょっと今回の議題に関しましては、これから勉強の余地があるところで、皆さんに教えてい
532 ただきながら、活動を広げていけたらと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

533 ○小池会長

534 そうですよ。PTAというのは「自分の子どもが通っている、通っていた学校をどう支えて
535 いくか」ということで、学校との連携を御家庭の保護者の皆様がしていきながら、学校の子
536 たちの育ちを盛り上げていくところです。小中学校のPTAとしては、県立学校とどのように関
537 係を持てばいいのかというのは、まだ視野の外にあり、今後の課題であるという御意見として承
538 りました。ありがとうございます。

539 それでは、杉下委員。藤沢市の片瀬小学校でコミュニティ・スクールに関わっていらしたとい
540 うことで、この経験を踏まえて、御意見を賜りたいと存じます。よろしくお願いいたします。

541 ○杉下委員

542 私も今、藤沢市にあります片瀬小学校のコミュニティ・スクールの委員をして、今年で3年目
543 です。

544 まず今関わっているところのお話をしたいのですが、地域でプロジェクトチームを作って、パ
545 ソコン授業の支援をしています。

546 特に小学1年生ですと、ログインするだけで、アルファベットがわからないとか、画面を触っ

547 てしまって戻せない、ということで授業が止まってしまいます。地域の若いメンバーで、パソコン
548 ンに詳しい人たちがサポートしています。

549 この間も小学4年生が、来週横浜に社会科見学で行くので、ネット検索しましょう、としたら、
550 漢字が読めなくて調べられないとか、先生方が、本来やることではないところで授業が止まって
551 しまうので、コミュニティ・スクールで選任をしたチームでサポートしています。

552 学校の先生方の御負担を地域でどう減らして、より円滑に地域と連携しながら事業を邁進させ
553 るかということでサポートしています。

554 学校と地域の連携の場で経験を積んできた中で、藤沢市に、藤沢翔陵高校がございませう。

555 私もボランティアなど10団体ぐらいやっています、その一つとして、昔から郷土文化で100
556 年ぐらい続く「片瀬こま」という独楽の保存会もやっています。藤沢翔陵高校も地域の歴史をや
557 っていきたいということで、授業をしました。それから、藤沢翔陵高校と連携して、8月頃に、
558 来年度の入学希望者の体験会で子どもたちが自主的に駒をやったり、地域の産業フェアでも、地
559 域交流のツールとして活用したりしています。そういったところで、世代間の交流や地域連携の
560 ツールとして、ある程度子どもたちが自主的にできるようになってきました。さらに他の団体も
561 関わっているので、「次の方を紹介してください」という形で、ある程度コーディネーター的な
562 ところもさせていただいています。

563 もう一つは県立高校ではないのですが、藤沢で不登校の子どもたちが通う「湘南一ツ星学院」
564 という高校もございまして、そちらで、いわゆるコーディネーター的なこともしています。

565 子どもたちは、なかなか社会参加が難しく、まず学校に来てもらうことが大切なのですが、や
566 っぱり「自分の通う学校地域にどういうものがあるか」、「自分が社会でどういう役割ができる
567 か」というところで、色々な団体を紹介しています。社会参加することや、自分たちの存在意義
568 を知ることで、学びの意欲が上がる、そういうコーディネーターもしています。

569 学校側から言われたら、その地域で活動をしている人を紹介しています。一つの地域で活動を
570 やっても、それだけで終わってしまうことがあるのですが、私も10団体ぐらいやっていると繋が
571 りもよくなるので、「コーディネーター的に一人つかまえて、よかったら、また色々なところを
572 紹介してもらえ。幅が広いから、いい人が見つかった」と言っていたら、できる限り頑張
573 っているところです。

574 あともう一つ、私立になってしまうのですが、横浜にある桐蔭横浜大学で、ボランティア論と
575 という授業もしています。先週の授業では、まさに今日資料であった「桐蔭マルシェ」のことで、
576 地域連携とか、地域参画の話をしました。

577 実は、そこでもっと広げたいところがあります。私は桐蔭高校の出身で、OB会をしっかり組
578 織立ってやろうということです。登録をしてもらって、今度地域連携する人を探すときに、OB
579 会に働きかけようということです。母校に対して、やっぱり愛着とか、愛校心があるので、せ
580 かくあるOB会をもっと活用するために、まだ登録してない昔の同級生に声をかけて、広げたい
581 と思っています。ちょうど桐蔭横浜大学に行ったら、担当の先生がいらっしやったので、OB会
582 と桐蔭マルシェでの地域連携もうまくできればな、という話をしてきたところです。

583 最後に、キャリア教育のところで、私もキャリアコンサルタント支援事業しています。名古屋
584 市は今、政令指定都市ではちょっと規模が大きいですが、名古屋市の中中学校に、1校一人キャ
585 リアコンサルタントを配置したと思います。キャリアコンサルタントが、地域コーディネーター
586 みたいな動きをして、支援をするそうです。学校協議会とか、推進員という立場がなかなか見つ
587 からないけれども、まずキャリアコンサルタントを配置して、発掘をするということです。

588 小中学校の、コミュニティ・スクールは地域のことをするので、町内会長や民生委員、社会福

589 社協議会の方ですが、ここでは、地域というのは社会になるということで考えています。将来人
590 口として、労働人口は地域としても確保しないとイケないので、コミュニティ・スクールや、推
591 進員の役目とは質が変わって、社会に向けた連携であれば、キャリアコンサルタントとか、キャ
592 リア教育を充実することによって、また地域連携というものも図れてくると思います。小中高校
593 としての、コミュニティ・スクールのあり方で、関わる人の立場も変わってくると感じていると
594 ころです。

595 ○小池会長

596 ありがとうございます。様々な御経験を、皆様にお伝えいただいて感謝します。杉下委員は、
597 「学校と地域を結ぶコーディネーターが見つけない」という一番の課題のコーディネーターを、
598 まさに担っていらっしゃる立場ですね。

599 今は藤沢市の学校地域、この協働活動推進委員とかそういった肩書きはいただいていらっしゃる
600 のですか。ボランティアですか。

601 ○杉下委員

602 はい。

603 ○小池会長

604 ボランティアで一切やってらっしゃるということですね。先ほど事務局からの御説明だったら、
605 予算がない地域ボランティアということですね。

606 ○杉下委員

607 地元で愛着があるので、何か少しでもお役に立てればと思っています。活動をすることで、学
608 校側もコーディネーターの見つけ方、コーディネーターとの連携の仕方を、私をうまくモデルと
609 していただいて、展開するきっかけになってくれれば、もうどんどん使ってください、というこ
610 とで活動しています。

611 ○小池会長

612 御自分で、色々な学校に「こういったことをやってきた人間であって、こういうことってでき
613 ると思うのですけどどうですか」と働きかけていらっしゃるのですか。

614 ○杉下委員

615 たたき台というか、たたかれ台として、色々使ってくださいという形です。

616 結局、お願いしてしまうと、少し違ったという時に、断るのが難しいではないですか。その前
617 に、どう声かけをするのかとか、一つの区切りとして、お役目御免というか、そういうフーチ
618 ャートも、自分を使って、たたき台の案を作っただけであれば、ということも言いながら働きか
619 けます。

620 すぐ「やめてください」と言われて、私も、無理してしがみつこうとはしないので、いい意味
621 で利用してください、というのを学校側にお伝えをして、地域連携をしています。

622 ○小池委員

623 すごいバイタリティーがおありになって尊敬します。わかりました。

624 学校側に何か求めたいことってありますか。県立高校とか、不登校の子どもたちが来ている、
625 色々な特性を持つ学校とか、様々な学校のニーズがあるかと思うのですけど。学校側がこういう
626 ふうなことを、もう少し外に向かってオープンにしてもらえると、コーディネーターをしやすい
627 とか、何かありますか。やっぱり学校の校長先生の意見も大事でしょう。

628 ○杉下委員

629 そうですね。藤沢翔陵高校に関して言えば、校長がどんどん、せっかく藤沢に来ているから、
630 「藤沢ってどういう町なんだろう」と知ってもらう機会が欲しいとのことで、私どもの片瀬こま

631 の郷土歴史のところにやってきたので、校長先生の考え方というのもあると思います。

632 あとは、その学校の先生方に、コーディネーターを探すとか、地域連携のもとを探すというの
633 は酷だとか、正直なところ難しいですね。やっぱり地域に日頃出てないと、どういう団体
634 があって、どういう人がいて、どういう人がキーマンなのか、把握が難しいと思うのですね。

635 だから、そういうコーディネーターみたいな人を県で見つけて派遣をするとか、NPOも、分
636 野ごとではなくて、NPOを支援するNPOもあるので、まずはそういう地域の見つけ方と関わり
637 方を使って、学校の現場の先生の仕事としては、想定させない。

638 片瀬小学校も、先生がちょうど今年妊娠をして、出産で、休暇する先生が重なりました。担任
639 が見つからないために4月から探して、やっと10月に見つかった。校長も教頭も兼任しなくちゃ
640 いけない、学校の現場の先生自体が不足をしている中で、新たな負担は結局教育の質を下げると
641 思います。

642 理想は地域でとか、県とか市教育委員会で、うまくそういうコーディネーターを養成して、ま
643 ず派遣をして、ノウハウがまとまったところから自主的にやってみようか、というふうにしてい
644 かないと、学校に押し付けるべきではないというのが持論です。

645 ○小池会長

646 学校と地域を結んで、地域の中にこのような人達がありますよということを学校に伝える。この
647 ハブになる機能、仲介する機能を、県の行政や自治体とする。人材紹介業ではないですけど、
648 色々なところで活躍している人というのは、市の単位で情報を持っているわけですね。教育委
649 員会が、それをまた県にあげて、県立高校に「こういった人たちが地域にいますよ」と繋いでい
650 ただくような、そういう役目をしていただけるといいのではないかと、ということですね。「学校
651 から探せ」というのは、なかなか難しいということですので、研修をしたり、キーマンになって
652 くれる活動をしたりしている人が地域にいることを知らせる仕組みを作ってもらいたい。貴重な
653 御意見ありがとうございました。

654 それでは皆様、どんどん、意見を伺っていかないと時間が迫ってきましたけれども、それでは
655 夏井委員お願いいたします。公民館の、御活動ずっとなさっているということで、よろしく願
656 いいたします。

657 ○夏井委員

658 神奈川県公民館連絡協議会の夏井でございます。県内の公民館のすべての活動がわかっている
659 わけではないですし、地域学校協働連携に公民館としてどのように関わっているか、という事例
660 についても、あまり詳しくなくて申し訳ないのですが、自分が関わっていました川崎市の事例を
661 お話します。

662 先ほど橋本委員の方からありましたように、高校生のインターンシップ、学校の単位になるの
663 だと思いますが、それで受け入れて、小学生や中学生の遊びの場のリーダー的な存在として、事
664 業の企画や運営をやってもらうというのが、昨年度から始まって、今年度も続いています。昨年
665 度やった人が今年度も関わっていますし、卒業してしまったので次の世代に繋げていくとい
666 こもやっているという事例があります。

667 また、夏休みの自由研究で、子どもたちや保護者が悩んでいたとき、高校生が来てくれ
668 て、理科の実験をやるとか、高校生が持っているスキルを小学生の方に教えてあげる事業も、公
669 民館の中で展開をしているところです。

670 そういう活動が地域の活動に繋がっていけばいいと思うのですが、単発的な形になって終わっ
671 てしまって、地域学校協働活動に繋げていくためには、どうすればいいのか、悩みの種ではあり
672 ます。

673 例えば工事現場、商店街のシャッターに、美術部の生徒がペインティングをしてくれて、まち
674 が明るくなるとか、高校生のSNSのスキルを利用して高齢者の学級での指導をしてもらうとか、
675 高校生が持っているスキルを生かして、進んで人との関わりを持つ中で、地域を知っていただく
676 ことができるのではないかと思います。

677 県立高校となると、地域柄少し難しいところはありますが、一つずつ積み重ねていくことによ
678 って、学校の地域との繋がり、また自分が住んでいる地域との繋がりというものが、育まれてい
679 くと思います。

680 ただ、公民館として直接的に地域学校協働の運営に関わっているところは、一部でしかないよ
681 うな気がします。人材を公民館の方ではいっぱい持っていますので、人材バンクではないですけ
682 ど、情報を発信したりできるかな、と思っているところです。以上です。

683 ○小池会長

684 ありがとうございます。そうですね。公民館と、県立高校のインターンシップ科目の一環と
685 して、子どもたちの遊びとか自由研究を指導していただくことで、生徒たちの単位になるわけ
686 すね。

687 ただ、それは単発の連携事業で終わっていて、公民館が、地域学校連携協働活動という形で、
688 県立高校に資するということはまだ、次の段階だということ。

689 皆様御承知のように公民館は小中学校区に1館という形、地域密着型で住民のための文化活動
690 やら、スポーツレクリエーションを振興していく社会教育施設です。どうしても地域の人達、住
691 んでいる人たちが中心ですよ。これを、県立高校とパイプを繋げて、子どもたちを支援すると
692 なると、本当に地の利を生かした、さっきのように近くに公民館があればという話ですね。

693 ただ、そういうところからもう少し、県立高校や特別支援学校への支援も、公民館として
694 考えていただくことが、非常に大事ではないかと思います。また御検討いただければと思います。

695 それでは、まだ御発言をいただいておりますので、野内みつえ委員、いかがでしょうか。

696 ○野内委員

697 私も小中学校のPTA会長をして参りまして、高校のときは本部役員を務めて参りまして、そ
698 の中で、やはりこのコミュニティ・スクールの会議などにも参加しました。

699 また、その当時、海老名市の柏ヶ谷小学校の方が、かなり先進校でしたので、PTA会長とし
700 て見学に行かせていただいた経験もございます。その時に、現役の校長先生が、コーディネータ
701 ーとして本当に奮闘されていて、見ていると本当に御苦労があるな、と実感しておりました。

702 そうした中で、私も、自分事としてコミュニティ・スクール、コーディネーターには、どうい
703 う方がふさわしいのか、当時から今まで考え続けて参りました。そうした視点から、私は、元校
704 長先生という方が非常に有望なのではないかと思います。

705 三つほど私に考えがあるのですが、一つ目、元校長先生の存在がとても大きい中でも、私が
706 地域で非常にお世話になっている校長先生、今年を過ぎて1年延長していらっしゃるのですけ
707 ど、この方が、熱意がある方で、地域の方に入り込んでいっています。すごく熱い感じでもない
708 のですけど、やっぱり気持ちがあたたかいんですね。地域との本当にうまい連携を取ってくださ
709 っているのです。

710 大和市は活性化会議が存続しているのですけれども、そうしたところや、地域の様々な役職名
711 で、体育振興会の方だったり青少年指導員だったり、様々な方々と、子どもたちのためにやって
712 くださっている。

713 こういった方々を、評価をしていただくシステムというのは、これは中学校の先生ですけど、
714 小中学校で、地域との連携をいわゆるお得意など、校長先生たちも皆さん優秀な方々ばかりです

715 が、得意不得意があると思うのですが、様々な活躍の仕方があると思うのです。そういった方々
716 に着目をしていただくことが一つ。

717 あと、二つ目は、ここで、高P連の存在というののはどのようになっているのでしょうか。

718 高校生のPTA連絡協議会、この方々がどのようにお考えになっていらっしゃるのかな、とい
719 うのを感じたのですね。私はそういった経験から、今こうして議員をさせていただいているので
720 すけれども、保護者の方々の中にも得意不得意って色々あると思うのですね。

721 地域の方々に、私たちの子どもがお世話になって参りますので、子どもを育てる中で色々な役
722 員なり役割などのある人になっていってもらおうのですが、その中で例えば子どもさん、小中高と
723 育て上げた後に、自治会の役員に入っていただくのか、また市や県などが設けている役割
724 を担っていただくのか。

725 私も会長として「地域の方や、そうした市なり県なり、お世話なってきていますので、力を使
726 っていこうよ」とお声掛けなどもさせていただいてきましたし、きっと今でも、後任の方々がや
727 ってくださっていると思います。

728 そういった方々が、PTAから様々な地域で活躍をされてきた中でも、学校ということに詳しく
729 くなって結果的には深く理解をしていきます。子どもたちのためと思ったときに、学校の文化的
730 だったり歴史的な考え方というのが、独特なものがあったりしますが、そうしたところは結局歩
731 み寄らなければ、かわいい子どもたちのことがわからないものです。そうした中で色々と建設的
732 な議論をしていける、しっかりした方、PTAや、藤沢市は先ほど言われた「保護者会」の代表
733 の方々から、そうした方を発掘していくというのも一つです。この中で高P連というのが、どう
734 いうふうにお話を連携しているのか、また県から、高P連なり、小中の繋がりの中から、繋がっ
735 て見つけていくのも一つかと思いました。

736 今すぐと考えたら元校長先生や、地域の方々、または公務員の方々に市とか県とか社会教育主
737 事など学んでいらっしゃるような方を中心に、また、PTAなど子どもの絡みの役職なりを経験
738 しているような方が、コーディネーターになっていただく。最初の段階は、そういう方が、知識
739 が詳しいので、始まりやすいのではと感じました。

740 そして今後ということで考えた場合、三つ目なのですが、先ほど橋本委員からお話を伺って思
741 ったのですが、教員の方々に、今そういった役割を受け持ってもらうのは大変、難しいというの
742 を、現場を見てきた者としても感じています。しかしながら、今後、教員の方々が全部ではなく
743 ても少し担っていくために、教員の採用方法の一つとして、地域と連携をしてきた、何か活動を
744 すごくやってきたという方を、一つ重視をして、採用をしていくということも一つなのではない
745 かと感じました。

746 私は小中高の連携が非常に重要だと思っています。今、小学校の校庭などで触れ合い広場とい
747 うのがございますが、大和市の1例として、中学校や近隣の高校の吹奏楽部の皆さんや、ダンス
748 部の皆さん、そうした方々が広場にこられて、子どもたちが一緒に部活動の発表の様子を見るの
749 ですが、そこにはたくさんの自治会長、ちょっと柱になる自治会長がいらっしゃいます。それは
750 県営住宅の連自治会長なのですけど、そういった方が、地域の青少年指導員はもちろん、様々
751 な役を担ってくださってるボランティアの方々ともすごく繋がってくださっています。これが、コ
752 ミュニティ・スクールが進んでいく、最初のような状況、原点になると考えています。

753 学校と保護者とその地域の、リーダーの方々とは進んでいく方向をちゃんと定めて、計画的に
754 進んでいくのがいいと思いました。

755 私も県議会議員として、コーディネーターにふさわしいような方というのを、割と色々な活動
756 をしていて、知っているのです、本当に縁の下の力ですけど、県教育委員会の皆さんと連携をして、

757 情報をお渡ししていく役割を担っていかなければいけない、と感じました。以上です。

758 ○小池会長

759 ありがとうございます。そうですね。

760 P T Aというものが、地域を結びつくということでどう考えていくかということ、県立学校の
761 レベルでも、そういったことを校長先生とともに一緒に考えていってもらい啓発が必要だろうと。

762 また地域と学校を結ぶコーディネーターですね。校長のOBとか、あと社会教育主事の資格を
763 有している人。そういうわかっている人たちが最初は結びつけるところに配置される有力な人材
764 なのではないか、そういう部分を県の教育委員会が考えていくべきではないかと、こういった御
765 意見を賜りました。

766 また、県議会議員として、野内委員が頑張っていて、色々な情報を県の方に上げてくださるという
767 ことですので、また色々な方々の、こういった情報を、生涯学習審議会の委員としてお伝えいた
768 だければと思います。ありがとうございます。

769 はい、それでは時間も迫って参りましたが、まだ御発言をいただいてない方が4名ほどいます
770 ので、御発言いただきたいと思います。それでは山崎委員、お願いしたいと存じます。

771 ○山崎委員

772 はい山崎です。私は今日参加させていただいて、皆さんのお話を伺って、知らないことがたく
773 さんあるのだなというふうに、すごく感じました。

774 個人的には今、小学校の読み聞かせのボランティアをしています。私自身30年ぐらい前から、
775 ずっとお話をやっています。特に就園前の子ども、幼稚園小学校ぐらいの子もたちを対象に、
776 そういうことを開いたり、高齢の方々の前でお話をやってきました。

777 3月まで、他のNPOで、県の委託を受けた事業をやっていたのですが、その中で、子どもが
778 だんだん取り残されていってしまう現実に、自分が今度何をしたらいいだろう、という足がかり
779 として、小学校のボランティアを引き受けました。

780 小学校には、それぞれ読み聞かせのボランティア制度がありますが、図書館の本を扱うボラン
781 ティアもあり、他にもミシンを子どもたちが使うときに、ボランティアに来ていただいて、ミシ
782 ンの使い方の指導をしてもらいます。それこそ「糸が通らない」とか、「針が外れちゃった、折
783 れちゃった」というときに、先生が、子どもたちに目が届くようにということの配慮からのボラ
784 ンティアだと思います。そういうボランティアもこれからますます、色々な分野で、広がってい
785 けばいいと感じています。

786 それから、今日の議題の県立高校について、私の知り合いに美容師がいますが、そこに10数年
787 前から、職業体験の生徒が来ています。男子生徒に結構人気があって、そこで職業体験をした人
788 たちの、結構なパーセンテージ、それこそ6割7割の方が、美容職に就いて専門学校に行って美
789 容師になった、というお手紙をもらったそうです。実際に見せてもらい、そこで働いている子ど
790 もたちの姿も見たりすると、こういうところから、じわじわと熱が生まれて、単発的な事業って
791 先ほど出ましたけれども、単発的ではなくて、地域を巻き込んだ中で、熱が生まれてくるような、
792 その熱が、若い人たちに伝わって、職業に繋がっていってもらえればいいのではないかと思いま
793 す。

794 そういうことを含めて考えると、自分が今まで関わってきた中で、どういうところで、子ども
795 たちと関わりがあったか、職業体験、それから幼稚園に行く体験をした人たちが、きちんと学校
796 を卒業して、そちらの方の職業に就いたという話も聞きます。また卒業した後、思い出として残
797 っていることとして、職業体験は大きいようなのですよね。

798 ですから、今やっていることを、少し見直ししながら、これを繋げて、その延長線上に、また新

799 しいものが何か生まれてくるのではないかと考えます。高校生は、自宅のすぐそばから通っている子ばかりではないのですが、例えば私の方の地域で言えば、夏祭りに高校生の吹奏楽部の生徒が、演奏に毎年のように来てくれています。そういう、自分たちが普段研鑽を積んでいることが、地域で発表できるという場所も、非常に大きいと思います。

803 防災訓練のときには、その地域の子どもたちが一緒に参加するというのも、ここ何年来やっています。考えてみると、制度の中に入っているかどうかわからないのですけれども、今日皆さんのお話を伺いながら、繋がりはいっぱいあるなと感じました。ありがとうございました。

806 ○小池会長

807 ありがとうございます。今、山崎委員のお話で、制度が先にあるということではなく、単発で皆さんが、住民が学校のためにやってくれている事業というのがあるでしょうと。それが、住民の生きがいにもなるし、「地域の人たちに見守られて、自分たちがこのようなことをやれた」と、生徒や児童が実感していくと、そういう熱が高まっていき、最終的には地域と学校との協働連携がうまくいく核になっていく、そこを忘れちゃいけないって話ですよ。

812 県立高校の人たちも、地縁的に近い子たちが、そこに通ってきているわけではないけど、地域の祭りとか、防災訓練のときに、住民の人たちと一緒に「あなたたちがいないと困るんだ」という形で、そういう実感をお互いが持ちあうところから、地域と学校の連携を通じた、地域全体で子どもたちを育むことに繋がっていくのではないかと、非常に貴重な御意見ありがとうございました。

817 はい、それでは、時間が迫って参りましたので、後の御三方には、簡潔にお話をいただきたいと存じますけれども、それでは大橋委員、よろしく願いいたします。

819 ○大橋委員

820 神奈川経営者協会から参りました大橋と申します。

821 私は民間企業をとということで、なかなかちょっと学校と遠くて、皆さん方とは違うので、ネガティブなことになってしまうかもしれないですけども、今、男女共同参画社会で、共働き数がすごく多くて、加えて 70 歳までの雇用の努力義務化もあって、社会の担い手は少ないと感じています。

825 学校の先生が少ないということと、地域の担い手だった方が少なくなっていることが、非常に課題であると思っています。

827 一方企業としてできることは、私、タカナシ乳業というところで働いていますが、学校に行って食育の出張授業をするのですよね。そこで、色々学んでいただいたり、あるいは、夏井委員や山崎委員の言われたとおり、高校生のインターンシップ、職業体験を受け入れたり、そういった中で企業と地域との繋がり、学校との繋がりがあります。

831 あとこれは神奈川の事業所ではなくて、群馬県の事業所でやっているのですが、お祭りを会社の敷地内で、地域の学校の方々を呼んでやるとか、そのような活動を企業としてはやっています。以上です。

834 ○小池会長

835 ありがとうございました。企業として様々に学校に御貢献いただいているということで、学校と地域だけではなくて、民間の中にあるこういう企業も、そこに参加しながら、社会の一員として、県立学校に学ぶ人たちを支えています、という例を御紹介いただきまして、ありがとうございました。

839 それでは続きまして石川委員。先ほど御質問いただきましたが今回、御意見をいただきたいと思えます。

841 ○石川委員

842 端的に言いたいと思うのですが、課題の一つに、「理解が十分ではない」という話あるので
843 すけど、私、これは意義が理解いただけてないのではないかと思います。先ほど八巻委員がおつ
844 しゃった、三つの差があるのですが、行政がしっかり、熱意を持ってやるべきかと思います。

845 私も県立高校出身ですが、危機感を覚えています。今、私学助成も無償化がありますし、今後、
846 通信制高校とか、あとオンライン授業というのがあると、その場に通う意義、これがすごく重
847 要だと思っています。ぜひ、生徒が居住しない地域だからこそ、そこにどう関わっていくか、と
848 いうことが重要だと思いますので、それは行政が意義をもってやっていただきたいなと思います。

849 もう1点、これも行政の話になってしまうのですが。先生の負担は、減らさないといけない
850 中で、平塚農商高校で、県生涯学習課の事業として、高校と地域を繋ぐ橋渡しが行われた事業が
851 採用された実例があります。どうしても先生の負担が増えるのであれば、行政側の人員を増や
852 しても、地域との連携を、行政でやっていただければと思います。以上です。

853 ○小池会長

854 ありがとうございます。教育行政の御支援、理解、その決意というものがやっぱり大切な
855 ではないかということですね。

856 また今、実践されているようなものもあるので、それをさらに後押ししていただき、広げて
857 いただきたいという御意見でした。

858 それでは、伊藤委員、御意見を賜りたいと思います。

859 ○伊藤委員

860 あまり時間がないということで、次回以降どう議論していくことになるのか考えていました。

861 やはり、本部を設置しているか、していないかということではなくて、実態として、どのよう
862 な活動がなされているのか、そここのところが大事なのではないかと思います。冒頭から御質問あ
863 ったとおりでと思います。制度上の本部が何個ですということではなく、実際どこにどんな取組
864 あるのか、そこにどんな課題や意味が見出せるかといったことの理解を前提にしてこそ、議論が
865 進められるのではないかと思います。

866 ただ、ここでこう言いつばなしにするのではなく、その実態把握をどのようにしたら良いのか
867 など考えていたところです。網羅的に把握するのはなかなか困難だと思いますけれども、実際あ
868 る活動の丁寧な把握が、必要ではないかと思います。

869 ○小池会長

870 はい、ありがとうございます。数字での御報告ではなくて、そこに行われている実情が見え
871 るような形の御説明をいただいた上で、次回はそこにある課題を、私たちにまた審議してもら
872 いたいということですので、そういった事例をもう少し御紹介をいただけないかという御要望で
873 した。

874 また県の事務局にはお手数をおかけしますが、わかる範囲で結構ですので、できるだけ詳細な、
875 今、行われていて、こういった、うまくいっているということがなぜなのか、私たちがわかるよ
876 うな形で、御紹介をいただきたいという、こういった御意見でございました。

877 ○八巻委員

878 一つよろしいですか。

879 ○小池会長

880 はいどうぞ。

881 ○八巻委員

882 心配していることがあります。県立学校に関する今日のお話で、学力的に上位の県立学校での

883 キャリア教育、地域活動のお話がなかったことです。

884 そうした高校に対しての支援は地元だけの力でいいのか、という課題です。サプライチェーン
885 マネジメントを理解しながら、キャリア教育を幅広く考える必要があります。その点も含めて、
886 次回、検討していただきたいと思いました。

887 更に、学校が忙しいといった場合に、小学校、中学校、高校みんな同じなのか、例えば県立高
888 校であれば、普通科と実業高校、忙しさは同じなのか。定時制と全日制が同じなのか、というこ
889 とを踏まえた議論が必要と感じます。一年、365 日の中で、その出勤日は 250 日、生徒登校日は
890 190 日。そして、実際の授業日は 185 日前後かと思います。その忙しさの度合いが違います。これ
891 らを踏まえて、議論しないと、「忙しい」、「大変だ」、「難しい」で終わってしまいます。

892 こうした地域と連携した教育は平均的な教員が経験の乏しい分野です。そこで、学校側と地域
893 がその理念を共有することが大切です。後は報告・連絡・相談の中で、学校と地域の負担度合い
894 を調整します。学校と地域がそのような知恵の出し合いをすることが大切と感じております。以
895 上です。

896 ○小池会長

897 ありがとうございます。県立高校といっても、色々な特色を踏まえた実例もあると。

898 だけど、普通の一般の大学受験を目指して、頑張っているような学校が、地域との連携はどの
899 ようにやっているのか、やっていないのか。やっているとしたら、どのような仕掛けが必要なの
900 かということも、視野に置いて議論が必要なのではないかという御意見ですね。

901 あと今日出なかったのですが、県立の中には特別支援学校があるのですよね。そうすると高
902 校だけではないということになります。御自分の家庭がある場所から、遠くまで皆さん通ってお
903 られて、地縁的な小学校や中学校ではないところで、特別支援学校の教育を受けている。

904 地域との連携を踏まえて、特別支援学校に通うお子さんたちをどういうふうに支援していくと
905 という仕組みができていくのかと、そういうことも課題としてあるなと思いながら、ただいまの御
906 意見いただきました。実態を調べろと言っても、たくさんの実態を全部調べるわけにいかないの
907 で、県の方では、今回実例として挙げてくださった学校をもう少しつまびらかに、御紹介いた
908 だきたいです。

909 また、わかる範囲で結構ですが、普通高校で学力が高いと言われているような学校が、地域と
910 の連携が実際あるのか。

911 さらに、特別支援学校と地域の連携について、今回、1 個御紹介がありました。そういったと
912 ころを少し詳しく御説明をいただきながら、次回、こういった形でこの地域と学校と連携させて、
913 地域全体で子どもを育む仕掛けを、県立学校の中において、していくための課題は何かというこ
914 とを、御議論いただくということで、本日は終わりたいと思います。

915 私のまとめということですが、お一人お一人の意見を賜ったときに、私からの意見は提示しま
916 したので、それを踏まえて、今後の議論に結びつけていただきたいと思います。ありがと
917 うございました。

918 それでは、皆様からの御意見を賜る時間は以上となりますので、この次に、事務局の方から御
919 連絡お願いいたします。

920 ○事務局

921 本日はお忙しい中御出席いただき、誠にありがとうございました。

922 事務局から 1 点御連絡です。お手元にお配りした資料のとおり、現在本県では、新たな総合計画
923 の策定を進めています。策定にあたっては、審議会の中で頂戴した県政に関する御意見を活用し
924 たく、今回の会議の内容は、庁内で共有し、策定の参考とさせていただきます。御承知おきくだ

925 さい。

926 次回開催につきましては、会長とも御相談しながら、改めて御連絡をします。以上です。

927 ○小池会長

928 それでは、これをもちまして第 16 期第 2 回の、県の生涯学習審議会を閉会としたいと存じます。

929 委員の皆様におかれましては闊達な御意見を御提示いただきましたことを感謝申し上げます。

930 また次回もどうぞよろしく願いたします。ありがとうございました。